

福 議 委 号
平成30年11月14日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会
委員長 熊 野 茂 夫

所管事務調査報告書の提出について

福島町議会定例会9月会議（平成30年9月19日）において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第147条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	8 所管関係施設・事業等の町内視察及び執行方針の取り組み状況について	
調査期間	平成30年10月31日	平成30年11月2日
出席委員	委員長 熊 野 茂 夫 副委員長 花 田 勇 委員 杉 村 志 朗 委員 平 沼 昌 平 委員 平 野 隆 雄 委員 溝 部 幸 基	委員長 熊 野 茂 夫 副委員長 花 田 勇 委員 杉 村 志 朗 委員 平 沼 昌 平 委員 平 野 隆 雄 委員 溝 部 幸 基
欠席委員	な し	な し
委員外議員	議員 川 村 明 雄 議員 木 村 隆 議員 佐 藤 孝 男	な し
出席説明員	副 町 長 高 木 壽 企画課長 住 吉 英 之 産業課長 川 合 力 哉 産業課参事(水産) 寺 谷 志 保 産業課参事(農林) 佐 藤 和 利 町民課長 小 鹿 浩 二 福祉課長 石 岡 大 志 建設課長 紙 谷 一	町 長 鳴 海 清 春 副 町 長 高 木 壽 企画課長 住 吉 英 之 産業課長 川 合 力 哉 産業課参事(水産) 寺 谷 志 保 産業課参事(農林) 佐 藤 和 利 町民課長 小 鹿 浩 二 福祉課長 石 岡 大 志 建設課長 紙 谷 一
議会事務局職員	事務局長 阿 部 憲 一 次 長 鍋 谷 浩 行 主 査 谷 藤 悟	事務局長 阿 部 憲 一 次 長 鍋 谷 浩 行 主 査 谷 藤 悟

[委員会意見]

調査事件 8 所管関係施設・事業等の町内視察及び執行方針の取り組み状況 について

(平成 30 年 10 月 31 日・11 月 2 日調査)

本委員会が所管する施設・事業等の課題や問題点を把握するための町内視察を実施した。10月31日に、合葬式墓地整備事業、第3種福島漁港整備事業、アワビ陸上養殖加工施設海水取水口改良工事、町道蝦夷ヶ沢線整備事業、岩部浄水場配水池水位計更新事業、町道福島月崎幹線整備事業、町道公営住宅線歩道拡張事業、丸山団地町営住宅（H30-A・B）建替事業を視察調査・検討会を行い、11月2日には平成30年度執行方針の取り組み状況を調査したので、調査結果を以下のとおり報告する。

【論点とした調査項目及び意見】

1. 所管関係施設・事業等の町内視察

現地視察した各施設・事業、いずれも現時点で問題点等は見られず適切に事業等が進められていると見受けられたが、以下の施設・事業については検討が必要と思慮する。

(1) アワビ陸上養殖加工施設海水取水口改良工事【産業課（水産）】

同施設については、低気圧により取水が停止、稚貝が大量斃死する等、想定外のトラブルによる被害を受けている。また、先般は北海道全域が長期停電するなど、これまで想定していなかった状況に対応する必要が出てきていることから、非常時の電源（太陽光、プロパンガスを使用した発電機）等の整備について検討願いたい。

(2) 丸山団地町営住宅（H30-A・B）建替事業【建設課】

室内にはユニバーサルデザインを採用しているが、入口にスロープ等が無く高齢者、障がい者が入居した際の使用に多少不便があるように感じた。建設を進めるに当たっては、室内だけでなく広く住宅環境に対してもユニバーサルデザイン的な考えを検討すべき。

2. 執行方針の取り組み状況

(1) 産業の再生による雇用の創出

① 福島町がんばる地元企業等応援条例に基づく支援について

投資額の町内循環分が昨年に比べて低くなっている。申請者に対して助成の主旨を説明し、地元で調達出来るものは地元企業を使用するよう指導を周知徹底するよう以前にも指摘しているが、改めて徹底するよう指摘する。申請者だけでなく、受注する地元企業、関連産業団体に対しても助成制度の主旨を周知徹底することをのぞむ。

個人取引による中古品の取り扱い対応については、以前の委員会で適正な取引額の基準を検討するよう指摘しているが、未だ検討中とのことから、期間を定めて関係団体とよく協議・検討する必要があると思慮する。

② 第3種福島漁港の直轄特定漁港漁場整備事業の進捗状況について

特になし

③ 漁港静穏域を活用したアカモク生産・活用調査検討プロジェクトの取り組みについて

これまでも様々な養殖事業の取り組みを行ってきたと思うが、いつの間にか無くなってきた。アカモクについてはテレビ等でも見る機会があり注目されていると思うので本気で取り組む価値があるのではないかと考える。その際、原料として出すだけでなく町内で加工し付加価値を付けるような企業を誘致するなど、雇用の場の確保、人口流出の抑制に結びつけて行くような取り組みについて検討されたい。

④ 「食べる昆布」プロジェクト事業の取り組みについて

北海シーウィードの来年度の生産目標数量については、当初計画から変更はあるものの乾燥設備を改善したことで対応が可能になったものとする。

今後とも、北海シーウィードと地元漁業者の信頼関係が損なわれないよう原料の確保に万全を期されたい。

⑤ 「新たな陸上養殖技術の開発による蝦夷アワビブランド化事業」について

当該事業については大きなトラブルもあり計画通りになっていないものの、当初予定していたサイズのもので出来つつあるとのことであり、今後、東京農業大学と産学官連携による加工品製造、マーケティングの委託を行うとしているが対応が遅いと思慮される。町内関係者等が加工レシピの作成を行った後の成果も見えず、海外産等との厳しい競争が予想されることから、生産と並行してマーケティングをしっかりと行うべきであり、早急に対応するよう指摘する。

⑥漁港静穏域を活用したウニ蓄養事業について

状況説明では、順調な事業展開とは判断できない。長期間の蓄養は、コスト的にも採算が合うのか疑問だが、事業継続にあたって、時間を掛けた分、立派な物ができ、高額で取引されることを期待する。

⑦イカ原料確保に向けた国・道への要望活動について

町が要望している冷凍イカ輸入枠の拡大については、様々な情報が入り乱れており理解が難しい。現状での要望効果は厳しく、町においては、業界の現況を十分把握し、適格な情報の収集に努めながら要望活動を実行願いたい。

⑧「福島版営農モデル」に基づく支援について

同モデルに基づく支援を受けている農業者が居ない現状から、担当課においては町内農業者の実態把握を早急に行い、定住を目指す後継者に対する有効な支援が行われるよう期待する。

⑨「福島町森林組合再建計画」に基づく取り組みについて

森林組合の人的体制について、以前から支援を行う予定としていたが未だ決まっていないとのことで現状の体制に不安がある。町有林・民有林の実態把握も進んでいないとのことから、早急に対応するよう指摘する。

⑩有害鳥獣駆除対策の取り組みについて

有害鳥獣駆除については、人手不足からハンターに負担が掛かっている状況もあるが、駆除後の処理について大変苦慮していると聞いている。近年、エゾシカ等の出没が急増し、今後さらに負担が掛かることが予想されることから、ハンターへの報酬等の見直しや、処分に係る体制の構築等を検討する必要があると思慮する。

⑪プレミアム商品券の発行について

特になし

⑫新たな観光資源の開発について

特になし

⑬「道の駅」の検証・検討について

特になし

⑭横綱の里づくりへの取り組みについて

九重部屋の夏合宿が巡業等の日程により中止となり、今後、時期をずらして行うことを検討しているとのことだが、これまでと異なる時期の受け入れは準備にも時間が掛かることから早めの調整をのぞむ。

(2) がん予防対策の充実

- ①各種がん予防対策について
特になし

(3) 高齢者等の安心安全な生活環境の充実

- ①特別養護老人ホームへの支援について
特になし
- ②高齢者の自立した生活確保への取り組みについて
特になし
- ③空き家対策について
特になし